



2021年度「性差別を考える日」リーフレット

2022年1月23日(日)は

九州教区



差別などあるはずのない（と思っている）教会で、私たちは気づかないうちに
「女性はこうあるべき」「男性はこうあるべき」を
押し付けられていませんか？逆に押し付けてはいませんか？
教会にもある「ジェンダーバイアス」について考え、気づき、
自らを変えるための行動を起こしてみませんか？

九州教区「性差別を考える日」毎年1月第4日曜日

日本基督教団九州教区

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目7-7（九州キリスト教会館内）

電話 092-712-6678

九州教区『性差別を考える日』について

世の中には女性だから、男性だから、といった性差別があることはお判りでしょう。では「教会」には性差別はないのでしょうか？

九州教区では1994年から毎年1月第4主日を「女性の日」として定めてきました。教会や教区でもっと女性の意見が反映され、存在が覚えられるために、常置委員会で制定されたものです。しかしこの取り組みが進められる中で、「女性の日」が単に「女性の起用を求める日」とされてはいないか、そもそも「女性の日」とは何だったのかはつきりしない、といった意見が出てくるようになりました。

そんな中、九州教区では牧師によるセクシュアル・ハラスメントが起きました。さらにその被害者が教会から疎外され、加害者である牧師の立場が守られるという二次被害まで引き起こしました。このことは教会内の性差別が根深いことを物語っているのです。

この事件がきっかけとなり「性差別を克服する」というテーマをリーフレットに記載し、教会の性差別体質を謙虚に認め改善していくための取り組みであることを明示しました。

また、2012年度からは「女性の日」を「性差別を考える日」と改め、今日にいたっています。今年度もそれぞれの教会で今一度、性差別について考えてみていただきたいと願っています。

あなたの教会を思い浮かべて見て下さい。

司会する人
〇〇兄
△△姉
□□さん

男子なみに虫にがこ?

役員・長老・執事

赤ちゃんまだ?

女性の牧師だから気がきくね

さすか 牧師夫人!

お茶を入れる人

お花活ける人

教会の中の、性別による役割を感じませんか?

教会員は女性が多いのに、役員は男性が多い。食事といえば、女性の担当。

「女性は、この仕事を、、、男性はこの仕事を、、、」と暗黙の了解で進められていると感じることはありませんか?

奉仕に身を捧げる事、役割に徹する事で成り立ってきた教会。その長年行ってきたことに対して、異議を唱えるということに、はばかれることはないでしょうか?

自分では気が進まない事であっても、性差によって分担させられて来た役割や期待に応える事でしんどい思いをして来た人もいるかもしれません。

～さらに深めるために～

日常の会話で何気なく言った言葉、行動で不快な思いをさせていたなんて、、、

差別している気なんてさらさらないので、、

“性差別” っていうけれど、どういうこと???

性差別は、とっても身近なところで、しかも無意識のうちにしてしまっているのです。

そこであなたの中の“無意識の思い込みや偏見”を探ってみませんか？

みなさんそれぞれチェックしてみましょう。

教会におけるジェンダーバイアスチェック

- * 役員は男性が担うほうがスムーズに事が運ぶと思う。
- * 女性の役員が少ないのは女性にやる気がないからだと思う。
- * 来客時のお茶出しや花束贈呈などは、女性のほうが良いと思う。
- * 会場設営などの場合、力仕事は男性、花を飾ったりは女性が担当すると良いと思う。
- * 子どもへのプレゼントは、女の子用（かわいい・ピンク）、男の子用（かっこいい・青色）と分けて考えている。
- * 日曜の朝、子どもが熱を出した場合、礼拝を休み子どもの看病をするのは母親のほうが良いと思う。
- * 愛餐会や懇談会、食事の準備は女性に任せるのはあたりまえと思う。
- * 牧師のパートナー（この場合女性）に対して『牧師夫人』と呼ぶことに違和感を感じない。
- * 女性教職を主任担任で迎えた場合、牧師のパートナー（この場合男性）に『牧師夫人』の役割を求めるのは酷であると思う。
- * 未婚の人に「結婚しないの？」と聞いたり、既婚の女性に『お子さんまだ？』『早くできるといいね』と何気なく言っている。

「ジェンダー」とは、歴史的、文化的、社会的に形成される男女の差異

「ジェンダーバイアス」とは“男らしさ”“女らしさ”という枠の中で“そうあるべき”という偏見や差別のこと。

無意識に発した言葉や行動が、生きにくい社会をうみだしているかもしれません。

ジェンダーバイアスの問題点として、①その人の個性・能力が生かされない②男性・女性に当てはまらない人が排除されるきっかけになる可能性があるということがあげられます。（西南女学院大学・倉富史枝教授による RKB 毎日放送でのコメントより）

